

大阪医科大学学報

第54号

平成14年11月

(インターネット版)



(晩秋の小さな紫式部)

目

次

病院組織の新設及び変更について	2
規程関係	2~4
叙位・叙勲	5
訃報	5
寄附金	6
学位記授与	7~8
科学研究費補助金・助成金の決定について	8
入学試験要項	9~12
中山山国際医学医療交流センター関連	13~16
教室紹介	16~17

野田英世記念会からの感謝状と予防接種センターの開設	18
市民公開講座	19
受賞	19
学内行事	19~21
会議	22~23
行事日程表	23
附属病院関係	24~26
保健管理室からのお知らせ	27~28
俳句	29

病院組織の新設及び変更について 規程関係

病院組織の新設及び変更について

本年10月1日付で附属病院に「医療安全対策室」が新設され、病院事務部栄養給食課が「栄養部」に、内視鏡室が「消化器内視鏡センター」に組織変更されました。

規程関係

規程制定

下記規程が次のとおり制定されました。

大阪医科大学附属病院関連病院に関する規程

なお、本規程の制定に伴い大阪医科大学附属病院関連病院長会に関する規程は廃止されました。

(趣旨)

第1条 本規程は、大阪医科大学各臨床・基礎系講座、各中央診療部（各講座・診療部と略す）と連携する関連病院に関し、必要な事項を定める。

- 2 大阪医科大学主関連病院及び主関連診療科、並びに卒前教育を行う教育関連病院については別に定める。

(定義)

第2条 関連病院とは本学各講座・診療部責任者がその講座・診療部医師（研修医を除く）の人事交流、医療情報の交換、共同研究、患者の相互紹介等を行う病院として定め、本学主関連病院並びに主関連診療科に関する規程第4条の運営委員会が認定した病院をいう。

(目的)

第3条 この制度は、本学と本学各講座・診療部責任者と連携する関連病院が、各講座・診療部に在籍する医師（研修医を除く）の臨床教育・研修・研究の充実及び診療技術の向上を図り、相互の活性化の促進と地域医療の向上に寄与することを目的とする。

(病院長会)

第4条 本学と第2条で認定された全ての関連病院が連絡を密にして、相互の発展に寄与するため関連病院長会を置く。

- 2 本会の会員は大阪医科大学各講座・診療部責任者と関連病院の病院長とする。

(病院長会役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 幹事 若干名
- 2 会長は、本院病院長をもって充てる。
 - 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のある時はその職務を代行するもので、本院副院長をもって充てる。
 - 4 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 5 役員の内任期は2年とし、再任は妨げない。

6 役員が任期中に欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(病院長会議)

第6条 本会は、原則として毎年1回定例総会を開くものとする。

なお、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

第5条の役員をもって構成する本会役員会は、必要に応じて会長が召集するものとする。

(人事発令)

第7条 関連病院への出向は、本学各講座・診療部に在籍する医師（研修医を除く）の人事異動の一環としてその講座・診療部の責任者・病院長及び学長の承認を経て、理事長が発令し第2条の運営委員会に届出る。

(出 向)

第8条 第3条の目的のため一定期間関連病院へ出向することを指す。

2 出向に際して、本学は教育職員を出向による休職扱いとする。

3 種々の資格取得等に必要の本学における臨床歴・研究歴は、所定の手続きを経て出向期間中保障される。

(出向期間)

第9条 出向期間については、出向者の所属各講座・診療部の意向を尊重する。

2 出向期間は、一医療機関に連続5年を限度とし、これを超えて更新することはできない。
ただし、所属各講座・診療部責任者が特別に必要と認める場合はこの限りでない。

(病院長会会計)

第10条 本会の会計は、会費をもってこれに充て、年1回定例総会において会計報告を行う。

なお、会費は年額5,000円とする。

(病院長会事務局)

第11条 本会の事務局は、本院病院医療相談部内に置く。

(細 則)

第12条 この規程に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は役員会の議を経て、総会で決定する。

附 則

1 この規程は、平成14年10月22日から施行する。

2 大阪医科大学附属病院関連病院長会に関する規程（平成13年3月7日制定）は、平成14年10月22日付をもって廃止する。

規程改正

下記規程が次のとおり改正されました。

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程

第2条中「栄養給食課」及び第5条中「栄養給食課」の部分を削除する。
附則として、「この改正は、平成14年10月1日から施行する。」を加える。

学校法人大阪医科大学出向規程

新	旧
第2条 出向とは次に掲げることをいう。 一本学に在籍のまま、関係会社等（以下「出向先」という。）の職員もしくは従業員としてその業務に従事させるため派遣することをいう。 二本学に在籍のまま関連病院等本学と関連のある諸機関の職員もしくは従業員としてその業務に従事させるため派遣することをいう。	第2条 出向とは、職員として本学に在籍のまま、関係会社等（以下「出向先」という。）の従業員として業務に従事することをいう。
第6条 出向者の所属は総務部人事課もしくは、講座・診療部等とする。	第6条 出向者の所属は総務部人事課とする。
第14条 本学が本学職員を関連病院等本学関連の諸機関に職員もしくは従業員として派遣した場合、その職員の勤続年数（第7条）、賃金（第8条）、社会保険（第9条）、有給休暇（第11条）、福利厚生（第12条）の取扱いについては、この規程の適用除外とし出向期間中は次のとおり取り扱う。 一勤続年数及び退職金算定期間には算入しない。 二給与は無給とする。 三社会保険と労働保険の適用はしない。	第14条 学校法人大阪医科大学と関連病院として契約書を取り交わしている病院への出向職員の勤続年数（第7条）、賃金（第8条）、社会保険（第9条）の取扱いについては、この規程の適用除外とし同規程の出向期間中は次のとおり取り扱う。 一勤続年数及び退職金算定期間には算入しない。 二給与は無給とする。 三社会保険、労働保険の適用はしない。
附則 この改正は平成14年10月1日から施行する。	

叙位・叙勲伝達

去る7月23日に急逝された、故土井一宏先生（英語教授）に対する叙位・叙勲の伝達が、9月13日（金）午前11時から行われ、学長から位記、勲章等がご遺族に手渡されました。

— 従五位 勲四等旭日小綬章 —



訃 報

本学名誉教授、鉤スミ子先生（79歳）が、平成14年10月12日（土）午後6時45分、武田総合病院において高血圧性うっ血性心不全のため逝去されました。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

寄付金

記念継続事業（新病棟建設）に係る寄付金の応募状況について

区分	項目	寄 付 金	
		件数	総額（円）
会社等（個人・一般含む）		83	69,227,840
仁泉会会員（大阪医科大学卒業生）		106	25,510,000
白友会会員（看護専門学校卒業生）		55	2,798,000
学生保護者		11	3,200,000
本法人役員・評議員		11	5,965,500
教職員		804	10,295,000
計		1,070	116,996,340

平成14年9月30日現在

寄付金申込者

平成14年7月1日から9月30日までの間に寄付金申込者は、4件、金額310,000円です。

ここに寄付金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

会社等（個人・一般含む）2件 金額250,000円

（寄付者）

有限会社 すばる印刷

医療法人 千寿会

（代表者）

代表取締役 野村 昌男

理事長 片山 外一

教職員 2件、金額60,000円

勢川 瑠美子 門田 雅人

寄付金募集についてのお願い

記念継続事業（新病棟（7号館）建設）のための旧建物の解体工事は、本年8月末に終わり、近々本工事の着工を予定いたしております。完成後は、教育・研究・診療の水準を格段に向上させると共に、地域医療の基幹病院としての役割を更に強固にするものであります。

この事業には、多額の建設資金を必要とし、その資金確保には、全学挙げて努力しておりますが、本学のおかれている現状では、学生の保護者、仁泉会会員（本学卒業生）、白友会会員（看護専門学校卒業生）、本学関係者はもとより各界、各位に、広くご支援を仰がなければならないのが実情であります。

つきましては、現下厳しい経済情勢の折、何卒本学の意をお汲みとり戴き、格別のご支援を賜わりますよう伏して、お願い申し上げます。

募金目標額：10億円

募金期間：個人（特定公益増進法人寄付金）
法人（ ） } 平成14年1月1日～平成18年12月31日

法人（受配者指定寄付金）「受配者指定寄付金」の受入承認後から2年間

寄付金額：個人1口1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

法人1口10万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

※当寄付金に対しましては、所得税または、法人税の減免措置が受けられます。

募金に関する問い合わせ先：

大阪医科大学募金推進室

TEL 072-684-6344（直通）

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第637号	川崎 浩資	Expression of survivin correlates with apoptosis, proliferaton, and angiogenesis during human colorectal tumorigenesis (ヒト大腸腫瘍発生過程におけるサバイビンの発現とアポトーシス誘導能、細胞増殖活性および血管新生との関係)
甲第638号	奥沢 正昭	PSK, a protein-bound polysaccharide, overcomes defective maturation of dendritic cells exposed to tumor-derived factors <i>in vitro</i> (<i>In vitro</i> 担癌環境下の樹状細胞成熟化に及ぼすPSKの影響)
甲第639号	堀口 泰輔	Macrophage apoptosis in bupivacaine hydrochloride-treated skeletal muscle in rats: possible roles of MCP-1 (塩酸ブピバカイン筋注ラット骨格筋におけるマクロファージのアポトーシスとMCP-1の役割について)
甲第640号	新田 昌稔	Expression of the EP4 Prostaglandin E2 Receptor Subtype with Rat Dextran Sodium Sulphate Colitis: Colitis Suppression by a Selective Agonist, ONO-AE1-329 (ラットDSS腸炎における大腸粘膜中EP4 prostaglandin E2 receptor subtypeの発現とselective EP4 agonist投与による腸炎抑制効果の検討)
甲第641号	岡村 展明	Fas-mediated apoptosis in human lens epithelial cells of cataracts associated with diabetic retinopathy (糖尿病網膜症を伴うヒト水晶体上皮細胞におけるFas関連のアポトーシス)
甲第642号	西口 完二	Comaparative evaluation of surgical stress of laparoscopic and open surgeries for colorectal carcinoma (大腸癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術における手術侵襲の比較検討)
乙第929号	岡本 健	Trandolapril reduces infarction area after middle cerebral artery occlusion in rats (ラット中大脳動脈閉塞モデルを用いたtrandolaprilの脳梗塞抑制効果)
乙第930号	伊藤 大	Efficacy of Interferon Treatment on Icidence of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Chronic Hepatitis C (C型慢性肝炎患者における肝細胞癌の発生に対するインターフェロン治療の効果)
乙第931号	紺田 敏之	閉塞型睡眠時呼吸障害患者のProsthetic mandibular advancementの有用性について —有効例におけるセファロ分析を中心に—

学位記授与 平成14年度 科学研究費補助金 助成金の決定について

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第932号	高尾 和正	Isolation of chymase complexed with physiological inhibitor similar to secretory leukocyte protease inhibitor (SLPI) from hamster cheek pouch tissues (SLPI様内因性インヒビターと複合体を形成したキマーゼのハムスター頬袋からの単離)
乙第933号	久野 雅人	Expression and characterization of γ -aminobutyrate and glutamate decarboxylase in rat jejunum: implication for the proliferation and differentiation of epithelial cells (ラット空腸における γ -アミノ酪酸およびグルタミン酸デカルボキシラーゼの発現と特徴：上皮細胞の増殖と分化との関連について)
乙第934号	日外 知行	Comparative study of various biological parameters, including expression of survivin, between primary and metastatic human colonic adenocarcinomas (ヒト大腸癌原発巣と転移巣における、survivin発現を含む各種生物学的因子の比較研究)
乙第935号	成 耆徹	既存の動静脈血管束を用いたPrefabricated Engineered Skin Flapについての実験的研究

- 科学研究費補助金 -

研究種目：基盤研究（C）

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	決 定 金 額 (千 円)	
		14年度	15年度
加齢による虚血耐性の変化と細胞周期制御蛋白の関与についての基礎的研究	胸 部 外 科 学 教 室 講 師 ・ 長 谷 川 滋 人	1,000	500
リアルタイム蛍光分光解析と蛍光二重標識による脳腫瘍細胞分布の術中同定法の確立	脳 神 経 外 科 学 教 室 教 授 ・ 黒 岩 敏 彦	1,500	1,000

- 厚生労働科学研究費補助金 -

平成14年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）[厚生労働省]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	採 択 金 額 総 額 (千 円)
多施設共同研究 新しい診断亜分類に基づく日本人1型糖尿病診療ガイドラインの作成に関する研究	第 一 内 科 学 教 室 教 授 ・ 花 房 俊 昭	10,000

平成14年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）[厚生労働省]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	採 択 金 額 総 額 (千 円)
標準データ項目セットを用いた知的データベースによる診療根拠の動的生成に関する研究	病 院 医 療 情 報 部 助 教 授 ・ 山 本 隆 一	10,000

平成15年度入学試験要項（概要）

平成15年度入学試験要項（概要）

平成15年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校、それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

）医学部・医学科

1) 入学願書受付期間

平成15年1月6日（月）～1月31日（金）必着のこと

2) 学科試験日および試験科目

月 日（曜）	時 間	教 科	科 目（出 題 範 囲）
2月13日（木）	9：30～11：10 （100分）	数 学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ・数Ⅵ 数Ⅳの科目中、平面幾何・計算とコンピュータを除く 数Ⅴの科目中、算法とコンピュータを除く 数Ⅵの科目中、数値計算・統計処理を除く
	12：30～14：30 （120分）	理 科	「物Ⅱ・物Ⅲ」・「化Ⅱ・化Ⅲ」・「生Ⅱ・生Ⅲ」 の3区分中2区分選択
	15：30～16：40 （70分）	外国語	英Ⅱ・リーディング・ライティング

3) 試験場

関西大学・千里山キャンパス第3学舎（社会学部）（大阪府吹田市千里山）

4) 学科試験合格者発表

2月21日（金）午後4時、本学構内に掲示するとともに、出願者全員に対して、電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付する。

5) 面接試験・小論文及び健康診断

2月24日（月）午前8時20分（学科試験合格者について実施する）

6) 合格者発表

2月25日（火）午後1時、合格者を本学構内に掲示し、本人宛（保護者現住所）にも合格通知書並びに入学に関する手続書類を送付する。

7) 入学検定料 50,000円

8) 納入金

項 目 \ 納 期	初 年 度 納 入 金			2 年 次 以 降 納入金（年額）
	第 1 期（入学手続時）	第 2 期（9月15日）	第 3 期（1月15日）	
入 学 金	1,000,000円			
授 業 料	610,000円	610,000円	610,000円	1,830,000円
実 習 料	120,000円	120,000円	100,000円	340,000円
施 設 拡 充 費	410,000円	410,000円	410,000円	1,230,000円
教 育 充 実 費	5,000,000円			900,000円
合 計	7,140,000円	1,140,000円	1,120,000円	4,300,000円

平成15年度入学試験要項（概要）

（註）

1) 入学手続き時に、PA会（保護者会）会費（年額100,000円）のうち第1期分50,000円及び学友会入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収する。

★入学手続き完了者で3月25日（火）正午までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還する。

）大学院・医学研究科

1) 入学願書受付期間

平成14年1月4日（土）～1月17日（金）（必着）

2) 入学試験日時、試験科目及び試験場

月 日（曜）	時 間	試 験 科 目	試験場
2月4日（火）	9：30～11：30	外 国 語	本 学
	12：30～13：30	健 康 診 断	
	13：30～16：00	面 接	
2月5日（水）	14：00～16：30	専 攻 科 目	

3) 合格発表

平成14年3月6日（木）午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知する。

4) 入学検定料 30,000円

5) 納付金

項 目 \ 納 期	初 年 度 納 付 金			2 年 次 以 降 納 付 金（年 額）
	第 1 期（入学手続き時）	第 2 期	第 3 期	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実 習 料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合 計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

平成15年度入学試験要項（概要）

）看護専門学校

推薦入学試験（指定高校制）

学 科	第一看護学科（三年課程）	第二看護学科（二年課程）
募集人員	約 15 名	約 10 名
受験資格	平成15年3月高等学校卒業見込みの者	平成15年3月高等学校衛生看護科 卒業見込みの者
推薦基準	推薦者は1学校1名 1) 成績がA段階またはB段階であること。 2) 心身共健康で将来看護師となるに適している者であること。 3) 専願で合格後は必ず入学すること。 4) 学校長の推薦があること。 5) 原則として卒業後本学附属病院に就職すること。	
試験日時	平成14年11月14日（木）9：00～16：00	
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く）・小論文試験 面接試験 適性試験 健康診断（健康診断書の結果、再診断の必要者に実施）	
試験場	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	
合格発表	平成14年11月22日（金） 合否については学校に通知するとともに本人に通知する。	
受験料	20,000円	
受付期間	平成14年11月1日（金）～11月8日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 （土曜、日曜、祝日を除く）	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 175,000円（前期） 実験実習料 25,000円（前期）	

平成15年度入学試験要項（概要）

一般入学試験

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
募集人員	約 25 名		約 30 名	
受験資格	1) 高等学校を卒業した者、および平成15年3月卒業見込みの者 2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む 3) 外国において学校教育を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 5) 文部科学大臣の指定した者 6) 文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者		1) 高等学校衛生看護科卒業および平成15年3月卒業見込みの者 2) 高等学校または中等教育学校後期課程を卒業し、准看護師の資格を有する者 3) 准看護師の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1次試験	2次試験	1次試験	2次試験
試験日時	平成15年1月26日（日） 9：00～15：30	平成15年1月27日（月） 8：00～	平成15年1月20日（月） 9：00～12：30	平成15年1月21日（火） 8：00～
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く） 数学Ⅰ（二次関数・ 図形と数量） 数学A（数と式） 生物ⅠB・化学ⅠB のうちいずれか1科目 選択 英語Ⅱ 適性検査	面接試験 健康診断 （健康診断書の結果、再 診断の必要者に実施）	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く） 数学Ⅰ（二次関数・ 図形と数量） 数学A（数と式） 英語Ⅰ 専門科目（准看護師 課程において履修 した科目） 適性検査	面接試験 健康診断 （健康診断書の結果、再 診断の必要者に実施）
試験場	大阪医科大学 本部北西キャンパス 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	大阪医科大学 本部北西キャンパス 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号
合格発表	平成15年1月27日（月） 8：00	平成15年2月1日（土） 12：00 合否については本人宛 に郵送で通知する	平成15年1月21日（火） 8：00	平成15年1月25日（土） 12：00 合否については本人宛 に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受験料	20,000円			
受付期間	平成15年1月4日（土）～1月17日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 （土曜、日曜、祝日を除く）		平成14年12月25日（水）～平成15年1月10日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 （土曜、日曜、祝日を除く）	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 175,000円（前期） 実験実習料 25,000円（前期）			

アムール医科アカデミー50周年記念式典に参加して

大阪医科大学中山国際医学医療交流センター長
河野 公一



今年9月20日に举行されたアムール医科アカデミー50周年記念式典に大阪医科大学中山国際医学医療交流センターを代表して、同センター運営委員の島原政司教授とともに参加したので報告します。

アムール医科アカデミーは、ロシア極東のアムール州の州都ブラゴベシチェンスクにあり、ロシア高等教育省の発表では、昨年度国内約50の医科大学中、モスクワ大学医学部について第2位の教育、研究評価を受けています。昨年9月に日露医学財団主催のシンポジウムが新潟で行われた際、同アカデミー副学長のRodionov教授と、生化学Borodin教授が本学島田学長を表敬訪問さ

れたのを機会に交流の気運が高まりました。

今年8月には、本学中山国際医学医療交流センターの主催事業として公募した、同アカデミーでの第1回短期夏期研修に、清水宏泰助手（衛生学公衆衛生学）引率のもとに4年生樋口万理子さん、若林崇雄君及び5年生禹英喜さんの3名が参加しており（詳細は本学報をご覧ください）、今回はその研修施設の見学もかねての参加となりました。

9月17日、新潟空港で今回の訪問にご同行願う、日露医学医療交流財団の里村昭夫、オリガ夫妻と合流し、空路2時間でハバロフスクに到着、現地では日本国総領事館を訪問し齋藤正仁領事の歓迎を受けるとともに、今後の両大学の交流についての協力依頼をしました。日本との時差も1時間で、海外出張ではいつも時差ほけに悩む私にとり今回の旅行は大変気楽だと思っていましたが、翌日から事態は一変しました。

ハバロフスクからシベリア鉄道で約20時間、決して快適とは云えない1等コンパートメントでの旅は、私にとり一生の思い出になりました。たまたま同じ式典に参加する、ロシア厚生省Nikorai医務局長との、夜を徹してのシャンペンやウオッカ攻めでの語らいは、ロシア人の気性を知りうる良い機会になりました。また翌日ブラゴベシチェンスク駅では同アカデミーのDorvskych学長以下多数の教授や学生によるロシア式の出迎えや歓迎の挨拶をうけ、いささか驚きもしました。

50周年記念式典は、9月20日午前10時から、大学本館前での未来に向けてのタイムカプセルの設置式から始まりました。式は医学生司会により行われましたが、途中、島原教授とともに地元テレビのインタビューを受け、その夜のニュース番組で早速放映されていました。ついで同アカデミー50周年記念博物館の開会式に出席し、学長から歴史を物語る多くの医学書や、実験器具の展示説明を受けました。私の教室でもかつて使用されていたワールブルグの検圧計を見たときは、本学でもこの種の医学博物館があっても良いのではと思いました。

中山国際医学医療交流センター関連

本式典は午後2時から大学の講堂で、厳かな雰囲気のもと開始されました。出席者は大学、行政、軍関係者など約500名で満席の状態でしたが、私は日本からの訪問者ということで、舞台の上に座られました。大学管弦楽団による国歌および学歌の演奏、Dorvskych学長の挨拶ののち、Nikorai医務局長、アムール州知事などの祝辞が続きました。私も5番目に挨拶し、大学から持参したお祝いの品（鶴と亀を配した水引きの品と富田酒の菰樽）を贈呈しましたが、これには会場が多いに湧きました。またその折、本学島田学長にアムール医科大学名誉教授の称号が授与されました。その後各団体の挨拶が延々と続き、式典が終了したのは午後6時前でした。さらにその後も祝賀会や、特別招待者を囲んでのレセプションなどがあり、ホテルの部屋に帰ったのは午前1時過ぎで、私もさすがに疲れました。

翌日からは夏期研修先の附属病院の見学や、Dorvskych学長との両大学の学生交流などの将来計画についての意見交換、国境警備隊などの表敬訪問などスケジュールが分刻みで行われ、帰国の途につく22日夜9時まで休む時間がほとんどないほどでした。もちろんその間どこにいてもウオッカやシャンペン攻めにあったことは云うまでもありません。

駅ではNikorai局長、Dorvskych学長をはじめ多くの教授や学生などに、夜は寒さが大分激しくなっているにもかかわらず、出発の時刻まで見送っていただきおおいに恐縮しました。長時間の鉄道での帰路や、旧式のプロペラ機（アントノフ24）での帰国は、私の疲れた身体に留めを刺すとともに忘れ得ない思い出にもなりました。

今回の訪問でかいま見ることの出来たロシア人のエモーショナルな一面が、私の波長とも意外と一致することに気がつき、彼等に対する今までの偏見がずいぶん是正された思いがしています。

来年夏のアムール医科アカデミー学生の本学訪問を楽しみにしています。

日中友好病院を訪問して

解剖学第一講座
教授 大槻 勝紀

6月29日から7月2日にかけて日中友好病院（中国では中日友好病院と言います）を訪問してきました。日中友好病院への訪問は2000年9月に次いで2度目です。中国における日中友好のシンボルは人物として鑑真和尚が、建物としては日中友好病院です。今回の訪問目的は中山国際医学医療交流センター（本センター）委員として今後の国際交流の実務的な打ち合わせでしたが、今回は第一解剖学教室のBasic Medical Learning（BML、以前の基礎配属）を選択した6名の第4学年学生諸君の病院見学も兼ねて、非常に賑やかな訪問（写真）となりました。

BMLで学生諸君とお会いした時、いきなり中国での社会見学の希望を聞かされていていささか驚きました。BMLはあくまで選択必修の科目でありますので、ただ単なる海外旅行ではなく、それなりの目的（例えば異文化とのふれ合いなど）がハッキリしていなくてはなりません。「何故、中国なのか」この点について学生諸君に尋ねたところ、正直、私が予想していた答えとは全く違っていました。どうせ最近の学生さんはお金持ちだから、この2週間を利用して海外旅行でも行きたいのではと思っていました。しかし、ある学生は実際に本年初めに北京大学へ短期留学をしていたので、こ

の機会にもう一度北京に行って病院などを見学したい。あるいはご両親が中国の方で中国のことをもっと知りたいとか、実際に中国語を勉強していて中国で現地の人と会話したいなどそれなりに真面目な意見でした。私にとってもある意味では好都合でした。何故なら本学と日中友好病院との国際交流で間に入っていたいただいていた酒谷JICA専門委員（学30期生）が日本大学に就職されたこともあり、ここしばらくは中国との国際交流が鈍ってしまい、一度、日中友好病院を訪問しようかと思っていたからでした。しかし本センター委員としての仕事はともかく、BMLといった授業科目で学生を中国に引率すべきか否か悩みました。折しも中華航空の墜落事故があったばかりでもあり、学生さんには飛行機はANAで（安全以外にマイルを貯めるにも好都合）、ホテルは三つ星以上（治安上の問題）および特約付きの海外旅行保険の加入を条件にして学生さんを北京へ引率することにしました。行くと決まってからは私どもの教室の雰囲気は一変し、なにやら訳の分からない中国語が飛び交う日々が続きました。

日中友好病院を見学する前に何病院長を表敬訪問し、今後の交流について会談しました。その際、学生さんを何院長に紹介しようかなと思う前に、学生さん自らが中国語で何院長に自己紹介するのを見て驚嘆しました（私はニーハオしか喋れません）。さらに招宴の席では、女子学生4名が劉副院長となにやら中国語で話しをしていると思ったら、白酒（バイチュー）の飲み合いが始まり、嫌な予感がしました（学報46号 P.18海外出張記「中国を訪問して」参照）。結局、私と男子学生はだらしなく酔いつぶれてしまいました。いずれにしても学生、特にウーマンパワーに脱帽するとともに、たくましく感じました。病院見学では学生さんは病院の規模や患者数の多さ（一日外来患者数3,000名以上）に驚くとともに、中医（いわゆる漢方）、按摩、鍼灸など中国独特の治療に興味をもったようでした。しかし後になって第4学年のBML感想文を読んで解ったことは、このような体験学習を通じて彼らが学んだ最も素晴らしいことは、お互いにチームメイトをより深く理解できるようになったことでした。

劉副院長とは日本学術振興会および日中医学協会に共同研究の申請を行い、外的資金の導入により互いに人の交流を図ることを確認いたしました。尚、本年10月17日には劉副院長が本学を訪問され、18日には「遠隔治療と中国西部地域の開発」のタイトルで講演されました。本センターでは日中友好病院以外にもこれまでアムール医科大学との交流やISDN回線を用いたテレビカンファレンスによる国際シンポジウム（2001年4月）開催などの活動を行ってきました。特に国際シンポジウムについては「日中医学」（Vol.16, p.25）で紹介されています。本センターが今後ますます関西での国際交流の拠点になるよう、微力ではありますが協力ができればと願っています。



国際交流シンポジウム開催

中山国際医学医療交流センター

国際交流シンポジウム「大阪医科大学の国際交流の新たなる展開」が、平成14年10月18日（金）午後4時30分から7時00分まで臨床第1講堂において、中山国際医学医療交流センターの主催にて下記のとおり開催されました。

【特別講演】

『遠隔医療と中国西部地域の開発』

中国北京日中友好病院

副院長 劉 曉勤

【シンポジウム】

『アムール医科アカデミーとの学生の交流について』

『フランスと結んだテレカンファレンス』



(特別講演風景)

センター紹介

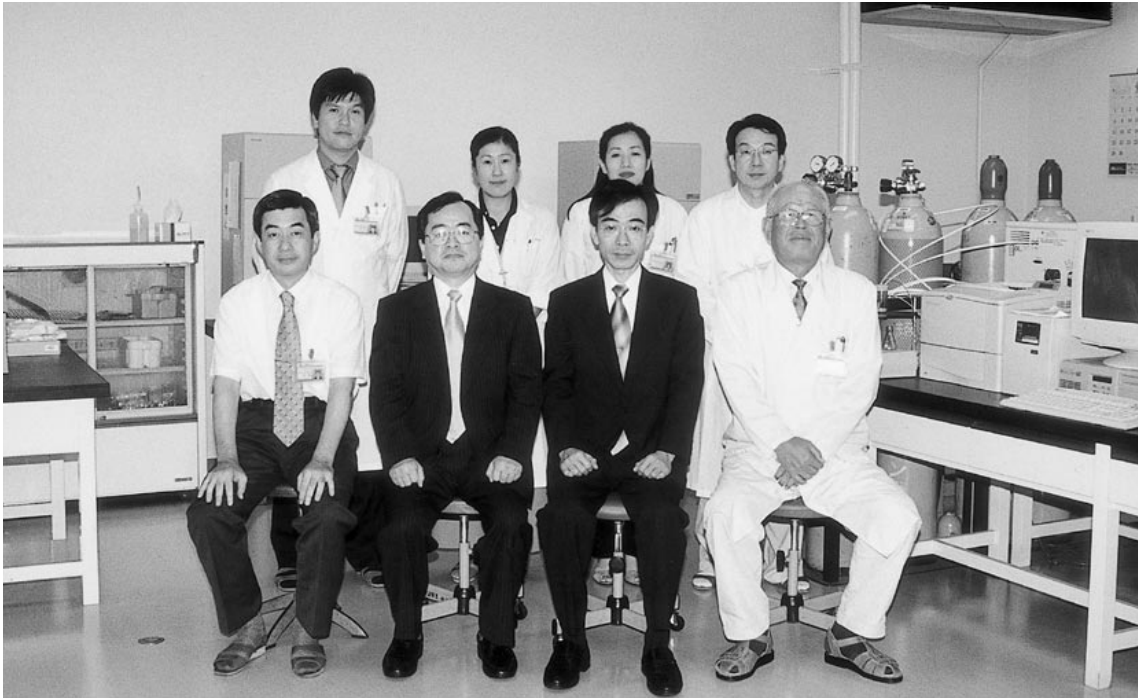
機器共同利用センター

機器共同利用センター長
佐野 浩一

当センターの前身である中央研究室は昭和34年の本学大学院の設置認可に伴い、発足しました。平成2年に総合研究棟3階の全フロアおよび4階・5階・6階・7階と第3研究館の一部に再配置され、その後総合研究棟1階の一部を当センター管理区域として、平成5年には現在の「機器共同利用センター」に改組・改称されました。この間の詳細については、本年発行された機器共同利用センター年報をご覧ください。たくさん存じます。

現在、センター長（兼任）・副センター長（兼任）各1名、専任教員1名と5名の技術職員によって日常業務を行っており、日常必要な審議は利用者代表会議で、センター全体の審議や決定は運営委員会で行われています。当センターはその成り立ちから「利用者」が中心となって運営されてまいりましたが、大学・大

学院改革の余波から「利用者が自ら積極的に運営に参加する」ことが困難になってきたため、今後様々な不都合が生ずる可能性が高くなっていました。そこで、昨年度は旧型機器を大幅に廃棄し、本年度は残った機器を再配置してスペースマネジメントを行った結果、余剰空間が生まれました。そこで、それを大学全体として活用すべく、利用者の皆様や教授会と法人のご理解を得てセンターの管理区域から外しました。改修工事を含めた機器の再配置は本年8月上旬に完了し、センター教員・職員一同、利用者の変化にあわせて、新たな気持ちで日常の業務に望みたいと思っております。さらに、センターの昼夜開放化をめざして、職員証を用いたカード式入退室システムの導入やそれをサポートするための一部有料化を実施いたしましたので、皆様のご理解と有意義なご利用を希望いたします。



のたび発行しました年報には平成10年度から12年度までの当センターの状況調査の結果とその評価をまとめ、平成13年度事業内容とセンターの機器が関わった研究業績や外部資金の導入状況およびそれらの評価を記しました。新規の機器導入などの際にはこの年報に含まれる情報をもとに検討されるよう希望するところです。その他、当センターの本学内での位置を明らかにしていくため、平成14年度の事業計画もあわせて記しました。

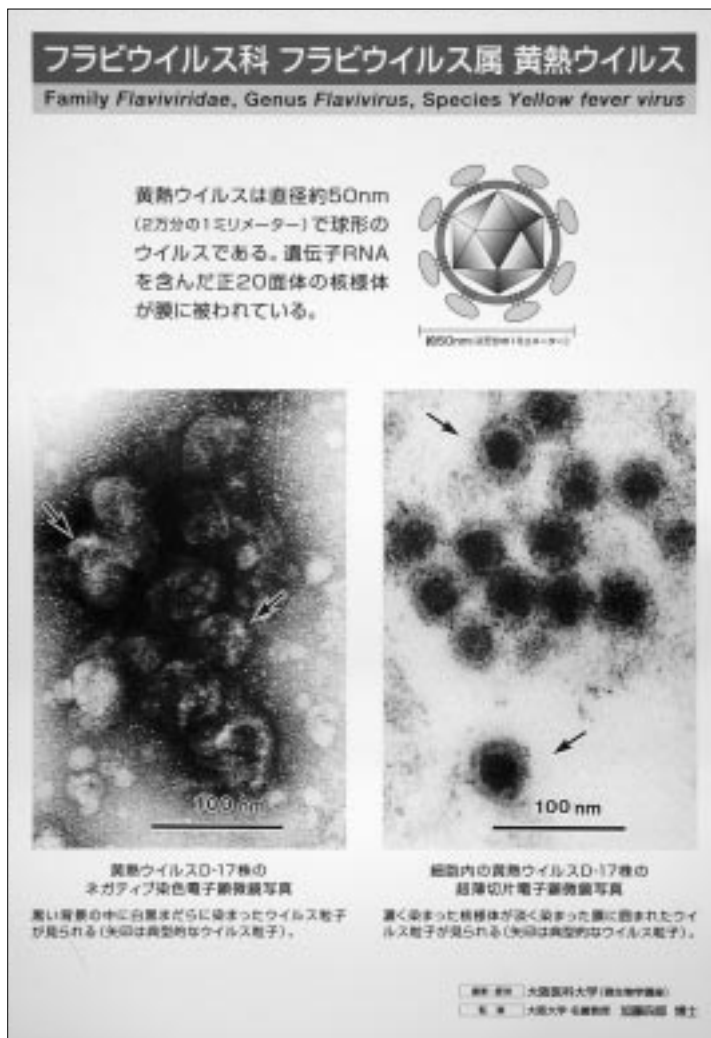
また、年報にも記しましたように、本邦は今世紀半ばまで続くであろう生産年齢人口の減少に備えなければなりません。この備えとは組織の集約・強化とその構成員の専門性の拡大を意味しています。大学院改革が進む中で、当センターの役割はますます重要になるものと考えられ、共同利用のみならず共同研究の場と

しての改革が必要になってまいります。共同利用や共同研究の場として当センターがその役割を発揮するためには、技術職員の充実は不可欠ではありますが、本邦の将来を考慮すると増員は望めません。そこで、各技術職員の専門性を広げる必要があるものと認識し、技術職員は各種技術講習会に参加し、レポートを作成するなど、幅広い専門性を獲得するように努力いたしております。また、技術職員の支援のもとで共同利用や共同研究がスムーズに行えるような体制への改組も不可避であります。

最後に、今回のスペースマネジメントを実現できましたのは、歴代の室長やセンター長の先見の明と教員および職員の多大の努力そして利用者の皆様や教授会と法人の深いご理解の賜物であることを記し、当センターの紹介とさせていただきます。

野口英世記念会からの感謝状と予防接種センターの開設

野口英世記念会からの感謝状と予防接種センターの開設



毎年、学部学生を対象とした特別講義の講師として本学にご貢献いただいている大阪大学名誉教授加藤四郎先生より「財団法人野口英世記念会に野口英世先生が研究された黄熱ウイルスの電子顕微鏡写真を提供してくれないか」との依頼を平成13年末に受けました。快くお引き受けしたものの、通常の方法では観察し難く、黄熱ウイルスの形態学的研究に関する文献も少なく、半年をかけてようやく電子顕微鏡写真のパネルを完成しました。森田学内講師と藤岡良彦主任技師が中心となり、神戸検疫所 井村俊郎 検疫課長（学27期生）と国立感染症研究所神経ウイルス室 高崎智彦 室長（学31期生）のご助力を得て、どうにかやり遂げることができました。5月初旬に野口英世記念会にお送りいたしましたところ、感謝状と野口英世博士の「忍耐の書」と「母君しか様の野口先生への手紙」のレプリカを頂戴いたしました。パネル右下には「大阪医科大学」と

記しました。また10月30日放映のNHK総合テレビ「その時歴史が動いた」にも大阪医科大学提供の画像が紹介されました。

また、厚生労働省大阪検疫所 中野康夫 所長（学16期生）のご提案と河野教授のご努力により本年10月1日に厚生労働省 大阪検疫所高槻予防接種センターが本学共用会館内に設置されました。これは海外渡航予定者が交通の便のよい高槻で予防接種を受けることができるように配慮したもので、本学の社会貢献のひとつとして田中理事長の特別のはからいによるものであります。

偶然にも8月に野口英世博士が千円紙幣の肖像として採用されることが決定されました。この紙幣発行に先立って、野口英世博士が研究された黄熱に関連する出来事が本学内にみられたことで、本学の将来が明るく照らされたような気がいたします。

（文責：佐野）

平成14年度 市民公開講座

平成14年度市民公開講座が下記のとおり開催されました。

[第4回]

9月21日(土) 午後2時~
臨床第1講堂

『そのとき、あなたは愛する人を救えますか』

講師 本学 救急医療部
教授 富士原 彰



受賞



写真、まんなかの女性が喜田先生です

シドニーで開催された第29回国際眼科学会会期中に、眼科領域の若手研究者(40歳未満)を奨励する第11回MSD AWARD授与式において眼科学教室の喜田 照代先生が第2位として表彰されました。論文名は「Increased plasma endothelin-1 in diabetes suppresses enhanced optic nerve head circulation during glucose tolerance test (糖負荷時の正常者および糖尿病患者における視神経乳頭血流の変化: 血中エンドセリン-1の関与)」、共著者は杉山、奥、張野、池田(敬称略)でした。

消火実地訓練実施



10月15日(火)午後1時30分から、消火実地訓練が高槻市中消防署の協力により中央資料館前にて行われました。当日は、消火器の使用訓練と、起震車による地震体験乗車も行われました。およそ100名の参加者は初期消火の重要性について身をもって学ぶとともに、地震など各種災害対策への認識を新たにしました。

看護専門学校戴帽式



看護専門学校第一看護学科学生44名に対する戴帽式が10月16日（水）午後1時から本学臨床第1講堂において、来賓及び保護者の方々をお迎えし挙行されました。

人権教育特別講演会



人権教育に関する特別講義が、10月30日（水）午後2時40分から、『人権について～プライバシー保護を中心に～』をテーマに平野武龍谷大学法学部教授を講師にお招きし、臨床第1講堂にて開催されました。来聴者は皆熱心に耳を傾けていました。

平成14年度解剖慰霊祭



平成14年度の解剖慰霊祭が、10月19日（土）午後2時から高槻現代劇場において、ご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）及び来賓各位約400名をお迎えし、本学役員、教職員並びに学生、看護専門学校生の参列のもと、おごそかに執り行われました。

名誉・功労教授懇談会



名誉・功労教授懇談会が、10月25日（金）午前11時30分から、いばらき京都ホテルで開催されました。今年は松本秀雄名誉教授が幹事を務め、12名の名誉教授、4名の功労教授が出席されました。

大学祭 2002



今年は「For the people」をテーマに10月12日（土）さわらぎキャンパスに於いて大学祭が開催されました。同キャンパスに設けられた野外特設ステージでは、午前10時から軽音ライブPart1が行われたのを皮切りに、空手演舞、吉本ライブ、ゲーム大会など多彩なイベントが催されました。

また、キャンパス内でも各クラブが、イベントやクラブ出展を行い、日頃は閑静なキャンパスも、この日は賑わいを見せていました。

第54回 西日本医科学生総合体育大会

第54回西日本医科学生総合体育大会は岐阜大学を総合主幹校として、西日本の44大学が参加し中部地方を会場に7月下旬から8月中旬にかけて20種目の競技が行われました。

本学の主な成績は次の通りです。

- 総合成績 第17位
- 上位成績 第3位 スキー部（男子・女子）
- 第4位 サッカー部
- 卓球部（女子）
- 第5位 ハンドボール部
- 第7位 ヨット部
- 第8位 準硬式野球部
- 弓道部（男子）
- 空手道部

さて、全国的な医学教育カリキュラム再編成の中、本学もその例にもれずカリキュラムが変わってきています。カリキュラムの変化に合わせてクラブのシステムにも改革が見られ4回生時の西医体をもって引退、3回生を新幹部としているクラブが多く見られます。その結果、我々学生がクラブに費やすことのできる時間は以前に比べると減少しました。そのあおりを受けてか、以前よりは総合成績の低下も見られます。各クラブとも、限られた時間の中で好成績を残すには密度の濃い練習が必要です。

現在3回生以下の学生は早くも来年夏の西医体に向け、より一層の向上を狙うべく練習に励んでおります。

今年は総合17位という平凡な成績でしたが来年はさらなる好成績を目指して精進していきたく思います。先輩諸氏、教職員の皆様方には温かい御支援、御指導宜しくお願い致します。

最後になりましたが、今年度をもってクラブ活動を引退された先輩方、本当にお疲れ様でした。我々の最も身近な先輩として、今後もどうか宜しくお願い致します。

平成14年度 体育会委員長
黒川 義隆

弓道部 個人準優勝 原 祐介（4回生）

準優勝することができて、とてもうれしいです。このような好成績を残せたのも同回生、先輩、後輩の協力があったからに違いありません。来年の西医体では団体戦で今年よりもよい成績をとれたらいいなと思います。

これからも弓道と勉強が両立できるようがんばります。



主要会議とその主な議題

8月1日から10月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(8月20日)

－審議事項－

1. 新総合棟（病院7号館）について
2. サテライト診療所の設置について

－報告事項－

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他（学事・病院・看護専門学校関係報告）

(9月10日)

－審議事項－

1. 新総合棟（病院7号館）について
2. サテライト診療所の設置について

－報告事項－

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他（学事・病院・看護専門学校関係報告）

(10月1日)

－審議事項－

1. 新総合棟（病院7号館）について

－報告事項－

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 施設計画事業本部報告
3. 経営専門委員会報告
4. その他（学事・病院関係報告）

(10月22日)

－審議事項－

1. 大阪医科大学附属病院関連病院に関する規程の制定について
2. 大学院学納金等の改定について

－報告事項－

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他（学事・病院関係報告）

[教授会]

(9月4日)

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. その他
 - 1) 学生の退学願出に関する件
 - 2) 人権教育推進委員会委員の変更について
 - 3) 臨床実習前試験委員会委員の変更について
 - 4) 教員の適正配置委員会副委員長及び委員の委嘱について
 - 5) 診療科教授制について
 - 6) 形成外科学講座担当教授選考を考える会答申について

(9月18日)

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 第3・4学年前期進級合否判定に関する件
3. 学則の一部変更に関する件
4. 教授選考に関する件
5. その他
 - 1) 本年度卒業式の日程を変更することについて
 - 2) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
 - 3) 総合試験委員会委員の変更について
 - 4) 大阪医科大学附属中央放射線部規程及び大阪医科大学附属中央放射線部運営委員会規則の制定について
 - 5) 大阪医科大学附属病院関連病院に関する規程の制定について
 - 6) 宗教学担当非常勤講師の任用について
 - 7) 新6学年卒業制定について
 - 8) 教員の任期制委員会報告について
 - 9) BULLETIN編集委員会委員の委嘱について

(10月2日)

1. 人事に関する件（学内講師の任用他）
2. 教授選考に関する件
3. その他
 - 1) 大阪医科大学附属病院関連病院に関する規程の制定について
 - 2) 学科目と基礎講座の再編について
 - 3) 入試制度審議会中間答申について
 - 4) 臨床教育協力機関、臨床教育教授、臨床教育助教授の推薦について

(10月16日)

1. 人事に関する件 (学内講師の任用他)
2. 教授選考に関する件
3. その他
 - 1) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
 - 2) 新入生学外合宿企画実行委員会委員の委嘱について
 - 3) 教員の適正配置委員会提案

[大学院医学研究科委員会]

(9月4日)

1. 学生の退学願出に関する件
2. 出向医に係る研究生制度に関する件

(9月18日)

1. 出向医に係る研究生制度に関する件

(10月16日)

1. 大学院学則の一部改正に関する件
2. 研究生に関する内規の一部改正に関する件
3. 学生の退学願出に関する件
4. 学論文受理に関する件
5. その他
 - 1) 中央研究施設再編に関する答申について
 - 2) バイオセーフティ実験室管理運営委員会報告

主な行事日程表

11月1日から1月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- | | |
|-----------|---|
| 11月6日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 12日 (火) | 理事会 |
| 14日 (木) | 看護専門学校推薦入学試験
(第一看護学科・第二看護学科) |
| 20日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 21日 (木) | 関連病院長会議 |
| 26日 (火) | 理事会 |
| 12月4日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 7日 (土) | 実験動物慰霊祭 |
| 9日 (月) | 学位論文提出のための語学試験
第6学年後期試験Ⅱ (13日まで) |
| 17日 (火) | 理事会 |
| 18日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 21日 (土) | 看護専門学校冬期休業 (1月7日まで)
医学部学生冬期休業 |
| 25日 (水) | 看護専門学校入学願書受付開始
(第二看護学科：1月10日まで) |
| 1月4日 (土) | 年賀交歓会
大学院医学研究科入学願書受付開始 (17日まで)
看護専門学校入学願書受付開始
(第一看護学科：1月17日まで) |
| 6日 (月) | 医学部入学願書受付開始
(1月31日まで)
第1・2・3・4学年授業再開
第5学年臨床実習開始 |
| 8日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 14日 (火) | 理事会
学位論文受付締切 |
| 20日 (月) | 看護専門学校第二看護学科入学試験 (21日まで) |
| 22日 (水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 26日 (日) | 看護専門学校第一看護学科入学試験 (27日まで) |

附属病院関係

平成15年度 臨床研修医募集要項（医科）

1. 募集人員

全科で90名。（A群80名、B群10名）

2. 募集研修科目

第一内科、第二内科、第三内科、精神神経科、一般・消化器外科、胸部外科、脳神経外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科（付：血液浄化センター）、放射線科、麻酔科、形成外科、リハビリテーション科、中央検査部・病態検査学、救急医療部、病院病理部

3. 研修プログラム

- ① 全ての研修医が、内科、外科、救急、小児科を研修する総合方式を採用する。
- ② 臨床研修センター（仮称）が、各研修医のカリキュラムを調整する。
- ③ A群は、志望研修科を登録し研修を開始する。カリキュラムは、総合4科10ヶ月、登録科12ヶ月と希望する研修科2ヶ月からなる。
- ④ B群は、未登録で研修を開始する。B群は、次の2系（各5名）で研修を行うことを基本とし、次のとおり2ヶ月から4ヶ月の研修を24ヶ月行う。

（B群 研修例①）

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
（前期）	内科		外科		内科系	救急
（後期）	小児科	精神神経科	産婦人科	麻酔科	麻酔科	地域医療

（B群 研修例②）

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
（前期）	外科		内科		外科系	小児科
（後期）	救急	麻酔科	麻酔科	産婦人科	精神神経科	地域医療

4. カリキュラムの詳細

- ① 両群に共通した必修（連続して）4ヶ月間研修
 - ・内科（第一・第二・第三内科共通）
- ② 両群に共通した必修2ヶ月間研修
 - ・救急の構成：本院救急部と三島救急救命センター及び中河内救急救命センター
 - ・小児科の構成：本院小児科と学外協力病院小児科
 - ・外科（胸部外科、一般・消化器外科 一般共通）但しB群では4ヶ月研修
- ③ 両群の研修医は希望する2ヶ月間研修を下記の科から選択することができるが、期間は原則的に臨床研修センターが決定する。
 - ・内科系：精神神経科、病院病理部、中央検査部・病態検査学
 - ・外科系：一般・消化器外科、胸部外科、脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、形成外科、リハビリテーション科
 - ・産婦人科
 - ・地域医療・保健所：平成14年9月末現在予定であり変更もある。

B群研修医の研修修了後の進路については、臨床研修センターが相談にあたる。

5. 処遇

臨床研修手当 125,000円

宿日直手当 別途支給

社会保険・労働災害保険 適用

6. 応募資格

平成15年実施の医師国家試験合格見込の者及び医師免許証を有する者。

7. 出願期間

平成14年11月11日（月）から平成14年11月22日（金）まで。

8. 提出書類

- ① 臨床研修医願書
- ② 履歴書〔別添 本院所定様式、上半身の写真を貼付のこと〕
- ③ 住民登録票
- ④ 卒業（見込）証明書
- ⑤ 学長又は学部長の推薦書〔医師国家試験合格見込の者のみ〕
- ⑥ 健康診断書〔別添 本院所定様式〕
- ⑦ 本院の志望理由〔別添 本院所定様式〕

9. 研修の評価

各研修担当科は、臨床研修医に関する評価表を作成し、病院長に提出する。
病院長は、評価表に基づいて個々の臨床研修医を総合評価する。

10. 研修の修了

病院長は、総合評価の良好な臨床研修医に対して、修了書を授与する。
なお、成績不振者に対しては、追加研修等を行うことがある。

11. 選考方法

選考は、主に提出書類及び小論文と面接によって行う。
選考の決定は、病院長が行う。

12. 臨床研修許可発表

郵送にて通知する。

13. 臨床研修期間

平成15年5月1日から2年間

〔研修開始前に全科合同のオリエンテーションを行う予定。〕

お問い合わせ先 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
大阪医科大学附属病院 病院事務部 病院サービス課
(072)684-6305 [直通]

平成14年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記のとおりです。

(平成14年4月～平成14年9月)

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H14.4	(817.7) 24,531	(2,351.3) 54,080	5.47	3.59
H14.5	(814.6) 25,254	(2,388.8) 52,554	2.28	4.40
H14.6	(850.1) 25,504	(2,296.5) 50,523	5.44	6.44
H14.7	(853.2) 26,449	(2,308.1) 55,395	4.27	0.68
H14.8	(862.3) 26,732	(2,037.8) 50,945	0.25	10.12
H14.9	(842.7) 25,282	(2,337.0) 49,077	2.15	3.93
合計	(840.2) 153,752	(2,281.6) 312,574	3.24	3.74

*外来患者数は、平成14年度より放射線科他科依頼数を減じている。 ()内は、1日平均患者数
 ・平成14年度上半期入院関係稼働日数 183日 (平成13年度も同じ)
 ・平成14年度上半期外来関係稼働日数 137日 (平成13年度は136日)

健康診断はいかがでしたか？

現代は生活習慣病の時代です。生活習慣病の原因は、遺伝的要素の他、幼少時からのライフスタイルが大きく関わっています。遺伝は持って生まれたものなので、変えることはできませんが、ライフスタイルは発想の転換や工夫によって変えることができます。

厚生労働省から出されている21世紀の国民健康づくり運動「健康日本21」にも、生活習慣病を予防する一次予防を中心として、食事、運動、休養、タバコ、アルコールなど、9つの分野で具体的な数値目標を掲げています。

生活上の危険因子をできるだけ減らし、健康保持増進、疾病予防、そしてたとえ病気になっても、症状を軽減していく健康習慣に変容していきましょう。まずは、できるところから実践していきましょう。“自分の健康は自分でつくる”この心掛けがあれば、健やかでいきいきとした生活が送れるでしょう。

気軽にできる生活習慣病予防ポイント

食事編 改善の一步は食事から・・・

『血圧が気になる』という方へ

- しょうゆやたれをかける前に味をみる
→「薄味を食べるのはイヤ」というあなたは・・・
かけるよりつけて食べる
- 味の薄いものから食べ、
味の濃いものは最後に食べる
- みそ汁は具たくさんにする
または
お汁は半分残すと、さらに良い

『ちょっと太ってきた』という方へ

- 夜8時以降は食べない
→「それは無理」というあなたは・・・
食後2時間以内は寝ない
(食べてすぐ寝ると、摂取した栄養は脂肪になります)

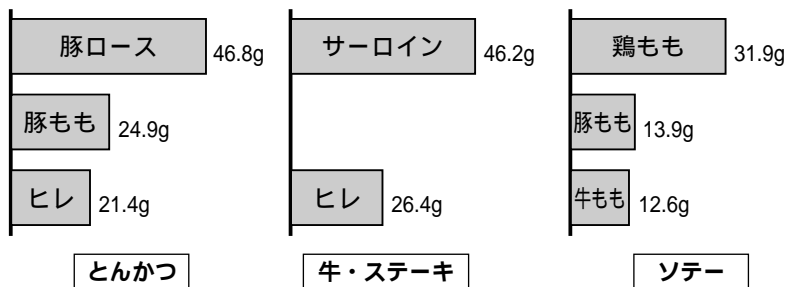


『血液をサラサラにしたい』という方へ

- 食品の選び方がポイントです
= 部位別脂質ランキング =
《1食分に含まれる脂質》

**とんかつやステーキを食べるなら、ヒレを!
モモのソテーなら牛を!**

- 青魚も食べましょう
→野菜を付け合わせると、効果倍増です。
- 大豆製品(豆腐、豆、納豆など)食べていますか？



(女子栄養大学出版部「食品のエネルギー-早わかり」より抜粋)

運動編

体を意識的に動かしてみませんか？

忙しい人、運動が苦手な人でも歩き方を少し工夫すれば、運動効果が上がります（普段歩く時にも実践できます）

- 【ポイント】 ・胸を張って背筋を伸ばす
・頭のてっぺんを上から引っ張られているようなイメージ
- 【ポイント】 ・おなかとお尻に力を入れてギュッと締める
・腰で歩く感じ
- 【ポイント】 ・前を、まっすぐ見る
・下を見ない

もっと運動したい人には・・・

- 歩幅を大きく、早足で、息がはずむくらいのスピードで歩いてみる
- 最初は5分～10分から、慣れてきたら1回20分以上を目標に
- 週3回くらいのペースで

頭痛・肩こり・腰痛解消には、ストレッチが効果的です

具体的な体操については、保健管理室にお問い合わせ下さい



休養編

心の「コリ」をほぐしましょう

- 音楽でリラックス“聞くもよし、歌うもよし”
- 体を動かし、汗を流してゆっくりと
- ぐっすり眠ろう
“時間ではなく、熟睡できていますか？”
- お風呂でのんびり
“ぬるめの湯にゆっくり”
- ストレッチをする
～こんな考え方もあります～
 - ①失敗にくよくよしない
 - ②難事に正面からぶつかる
 - ③ナンバー1よりオンリー1
自分は自分、他人は他人
 - ④気軽に話し合える相手を見つけよう
 - ⑤しんどい時こそ笑ってみよう
 - ⑥なるようにしかならない



保健管理室では、健康に関すること、対人関係についてなど、様々な面について相談を行っています。気軽にお立ち寄り下さい。

歯編

11月8日は「いい歯」の日です

上手な歯磨きで、お口の中も健康に！

- 歯ブラシは・指2本くらいの幅
・固さは「普通」か「柔らかめ」
 - 持ち方—鉛筆を持つように
 - 前歯や奥歯を磨く時
・歯ブラシを歯に垂直にあてる
・1本ずつ磨くイメージ
 - 歯と歯ぐきの間を磨く時
・歯ブラシを45度にあてる
・細かく振動させるように磨く
 - 歯の裏を磨く時
・歯ブラシを縦に持つ
・歯ブラシの毛先を上手に使う
- 磨く時は力を入れすぎず、やさしく丁寧にできれば毎食後、特に、夕食後には歯を磨きましょう
- =歯の定期検診も大切です=
- 自分で取れない歯垢を取ってもらいましょう

掲示板

第3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

	第3回目B型肝炎ワクチン接種	3回ワクチン接種後抗体検査
月日	平成14年 12月4日（水）または12月5日（木）	平成15年 1月15日（水）または1月16日（木）
時間	午後2時30分～3時30分	午後2時30分～3時30分
場所	未定	未定

対象の方には事前に案内文を個人通知させていただきますので、ご参照下さい。

大阪医科大学俳句会（六・七・八月）

相寄るも離るも水に沿ふ螢	塚本務人
百八つ鐘に乳あり鳳仙花	今井雄介
引越は捨つるものより茗荷の子	中川一成
姉ふたりさつさと出でし蝉の穴	奥田筆子
海の日や海の星なるマリア様	吉田孝江
茶覆や河内訛は突きぬける	飯塚久子
化粧落とす鏡の底は梅雨の音	美濃 眞
志賀途中越えれば開く夏の湖	和田 明
したたかに酔つて宇宙や螢狩	山崎隆司
二度と来ぬ街とおもひつビールかな	同
立秋や十一桁の民となり	（投稿）宮脇芳美
梅雨寒や修正ペンを持つドクター	同

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



ほいくしつうんどろかい



(ヨーイ・ドンだぞ)



(それいけアンパンマンたち)



10月12日(土)午前9時、秋晴れのさわやかな涼風が吹きぬける中、本学保育室の運動会が、「ガンバリマンのうた」の大合唱を最初に始まりました。

こどもたち、おとうさん、おかあさんたちの元気な歓声と応援の聲が天高く響き渡り、楽しくちょっぴりスリリングなプログラムが繰り広げられていきました。

大阪医科大学学報 第54号
発行年月 平成14年11月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>